Ⅰ　貯蓄の状況

１　概要

（１）二人以上の世帯の貯蓄現在高は1798万円で，前年に比べ59万円，3.4%の増加

二人以上世帯における2014年平均の１世帯当たり貯蓄現在高（平均値）は，1798万円で，前年に比べ59万円，3.4%の増加となり，直接比較可能な2002年以降で最高となった。貯蓄保有世帯全体を二分する中央値は1052万円（前年1023万円）となった。また，年間収入は614万円で，前年に比べ２万円，0.3%の減少となり，貯蓄年収比（貯蓄現在高の年間収入に対する比）は292.8%で，前年に比べ10.5ポイントの上昇となった。

このうち勤労者世帯（二人以上の世帯に占める割合51.5%）についてみると，貯蓄現在高の平均値は1290万円で，前年に比べ46万円，3.7%の増加となり，貯蓄保有世帯の中央値は741万円（前年735万円）となった。二人以上の世帯全体と比べると，平均値，貯蓄保有世帯の中央値共に低くなっている。また，年間収入は702万円で，前年に比べ６万円，0.8%の減少となり，貯蓄年収比は183.8%で前年に比べ8.1ポイントの上昇となった。

（表１，図１）

（２）貯蓄現在高が100万円未満の世帯の割合は10.3%

二人以上の世帯について貯蓄現在高階級別の世帯分布をみると，平均値（1798万円）を下回る世帯が67.6%（前年68.0%）と約３分の２を占め，世帯分布は貯蓄現在高の低い階級に偏っている。貯蓄現在高が最も少ない100万円未満の階級が，二人以上の世帯に占める割合は10.3%となっており，前年（10.0%）に比べ0.3ポイントの上昇となった。

このうち勤労者世帯についてみると，100万円未満の階級が勤労者世帯に占める割合は12.4%で，前年（12.0%）に比べ0.4ポイントの上昇となった。

（図１）

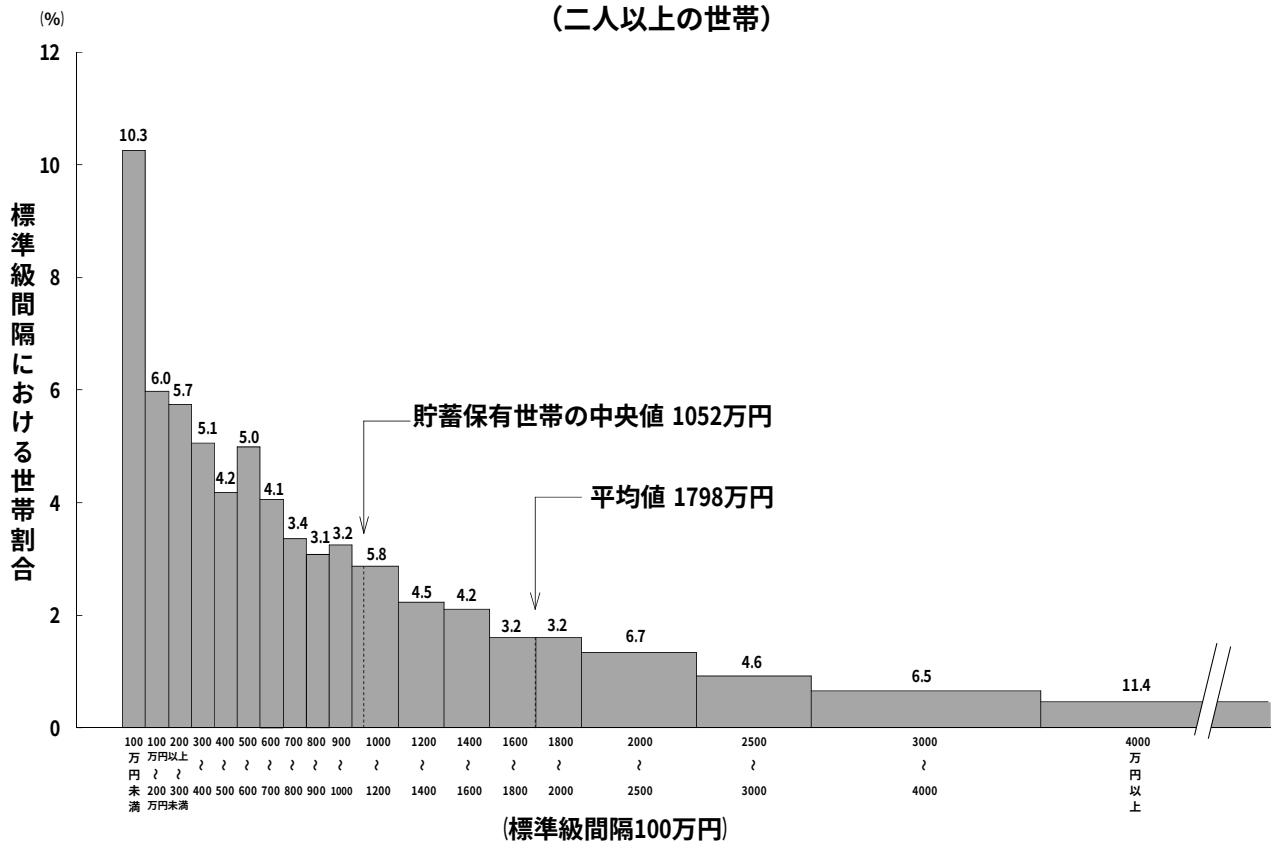
表１　貯蓄現在高の推移

年　次	貯蓄現在高 (1) (万円)	年間収入 (2) (万円)	対前年増減率 貯蓄現在高 (%)	対前年増減率 年間収入 (%)	貯蓄年収比 (1)/(2) (%)	貯蓄保有世帯の中央値※ (万円)
二人以上の世帯						
2002年	1688	683	-	-	247.1	1022
2003	1690	660	0.1	-3.4	256.1	1027
2004	1692	650	0.1	-1.5	260.3	1024
2005	1728	645	2.1	-0.8	267.9	1052
2006	1722	645	-0.3	0.0	267.0	1008
2007	1719	649	-0.2	0.6	264.9	1018
2008	1680	637	-2.3	-1.8	263.7	995
2009	1638	630	-2.5	-1.1	260.0	988
2010	1657	616	1.2	-2.2	269.0	995
2011	1664	612	0.4	-0.6	271.9	991
2012	1658	606	-0.4	-1.0	273.6	1001
2013	1739	616	4.9	1.7	282.3	1023
2014	1798	614	3.4	-0.3	292.8	1052
二人以上の世帯のうち勤労者世帯						
2002年	1280	748	-	-	171.1	817
2003	1292	721	0.9	-3.6	179.2	808
2004	1273	730	-1.5	1.2	174.4	805
2005	1292	719	1.5	-1.5	179.7	807
2006	1264	713	-2.2	-0.8	177.3	772
2007	1268	718	0.3	0.7	176.6	783
2008	1250	717	-1.4	-0.1	174.3	757
2009	1203	709	-3.8	-1.1	169.7	754
2010	1244	697	3.4	-1.7	178.5	743
2011	1233	689	-0.9	-1.1	179.0	729
2012	1233	691	0.0	0.3	178.4	757
2013	1244	708	0.9	2.5	175.7	735
2014	1290	702	3.7	-0.8	183.8	741

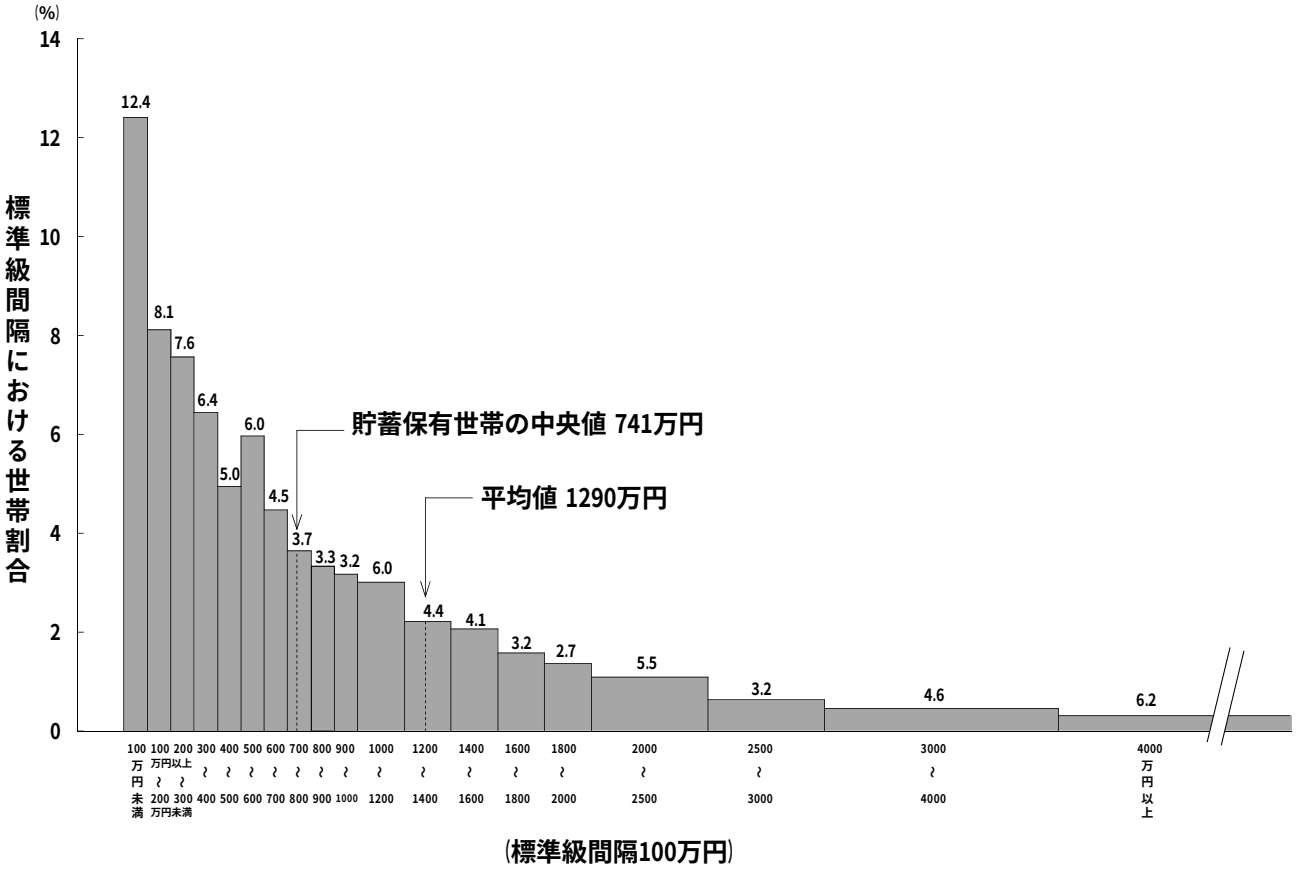
※　貯蓄保有世帯の中央値とは，貯蓄現在高が「０」の世帯を除いた世帯を貯蓄現在高の低い方から順番に並べたときに，ちょうど中央に位置する世帯の貯蓄現在高をいう。

図１　貯蓄現在高階級別世帯分布－2014 年－

（二人以上の世帯）



（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）



注）標準級間隔100万円（1000万円未満）の各階級の度数は縦軸目盛りと一致するが，1000万円以上の各階級の度数は階級の間隔が標準級間隔よりも広いため，縦軸目盛りとは一致しない。

２　貯蓄の種類別内訳

（１）二人以上の世帯の有価証券は２年連続の増加

二人以上の世帯について貯蓄の種類別に１世帯当たり貯蓄現在高をみると，定期性預貯金が758万円（貯蓄現在高に占める割合42.2%）と最も多く，次いで通貨性預貯金が380万円（同21.1%），「生命保険など」が371万円（同20.6%），有価証券が251万円（同14.0%），金融機関外が37万円（同2.1%）となっている。

このうち勤労者世帯についてみると，定期性預貯金が469万円（同36.4%）と最も多く，次いで「生命保険など」が320万円（同24.8%），通貨性預貯金が308万円（同23.9%），有価証券が136万円（同10.5%），金融機関外が57万円（同4.4%）となっている。

2013年と比べると，二人以上の世帯について，定期性預貯金，通貨性預貯金及び有価証券は増加となっている。有価証券については，前年に比べ11万円，4.6%の増加となり，２年連続の増加となっている。一方で,「生命保険など」は減少となっている。

このうち勤労者世帯についてみると，定期性預貯金，通貨性預貯金及び有価証券は増加となっている。特に通貨性預貯金は，調査を開始した2002年以降12年連続の増加となっている。有価証券については，前年に比べ20万円，17.2%の増加となり，２年連続の増加となっている。「生命保険など」は同水準となっている。

（表２，図２）

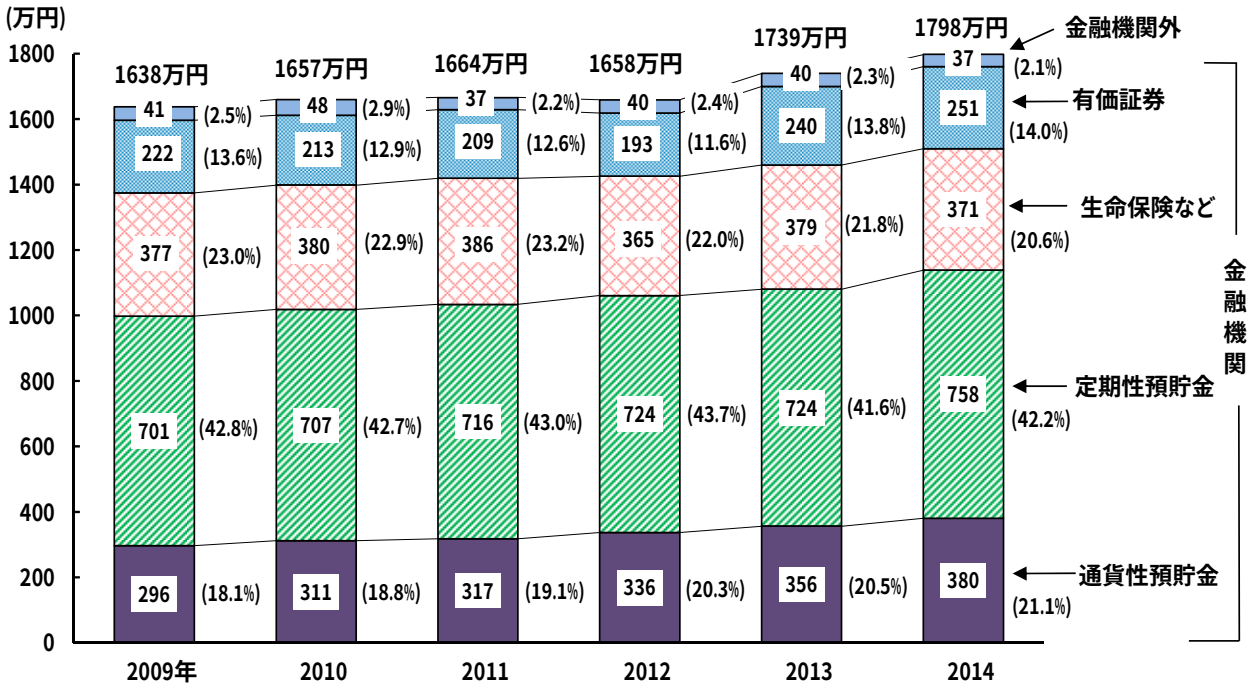
表２　貯蓄の種類別貯蓄現在高の推移

年次	二人以上の世帯													
	貯蓄現在高	金融機関	通貨性預貯金	普通銀行等	郵便貯金銀行	定期性預貯金	普通銀行等	郵便貯金銀行	生命保険など	有価証券	株式・株式投資信託	貸付信託・金銭信託	債券・公社債投資信託	金融機関外
	金額（万円）													
2009 年	1638	1597	296	222	74	701	477	224	377	222	139	13	70	41
2010	1657	1610	311	237	73	707	485	222	380	213	134	11	68	48
2011	1664	1627	317	244	73	716	498	218	386	209	134	12	63	37
2012	1658	1618	336	259	77	724	504	221	365	193	126	10	57	40
2013	1739	1699	356	280	76	724	515	210	379	240	161	12	67	40
2014	1798	1761	380	301	79	758	540	218	371	251	175	12	64	37
	構成比（%）													
2009 年	100.0	97.5	18.1	13.6	4.5	42.8	29.1	13.7	23.0	13.6	8.5	0.8	4.3	2.5
2010	100.0	97.2	18.8	14.3	4.4	42.7	29.3	13.4	22.9	12.9	8.1	0.7	4.1	2.9
2011	100.0	97.8	19.1	14.7	4.4	43.0	29.9	13.1	23.2	12.6	8.1	0.7	3.8	2.2
2012	100.0	97.6	20.3	15.6	4.6	43.7	30.4	13.3	22.0	11.6	7.6	0.6	3.4	2.4
2013	100.0	97.7	20.5	16.1	4.4	41.6	29.6	12.1	21.8	13.8	9.3	0.7	3.9	2.3
2014	100.0	97.9	21.1	16.7	4.4	42.2	30.0	12.1	20.6	14.0	9.7	0.7	3.6	2.1
	対前年増減率（%）													
2009 年	-2.5	-2.6	2.1	2.3	1.4	0.7	1.5	-0.9	-1.8	-17.8	-18.7	-13.3	-17.6	5.1
2010	1.2	0.8	5.1	6.8	-1.4	0.9	1.7	-0.9	0.8	-4.1	-3.6	-15.4	-2.9	17.1
2011	0.4	1.1	1.9	3.0	0.0	1.3	2.7	-1.8	1.6	-1.9	0.0	9.1	-7.4	-22.9
2012	-0.4	-0.6	6.0	6.1	5.5	1.1	1.2	1.4	-5.4	-7.7	-6.0	-16.7	-9.5	8.1
2013	4.9	5.0	6.0	8.1	-1.3	0.0	2.2	-5.0	3.8	24.4	27.8	20.0	17.5	0.0
2014	3.4	3.6	6.7	7.5	3.9	4.7	4.9	3.8	-2.1	4.6	8.7	0.0	-4.5	-7.5

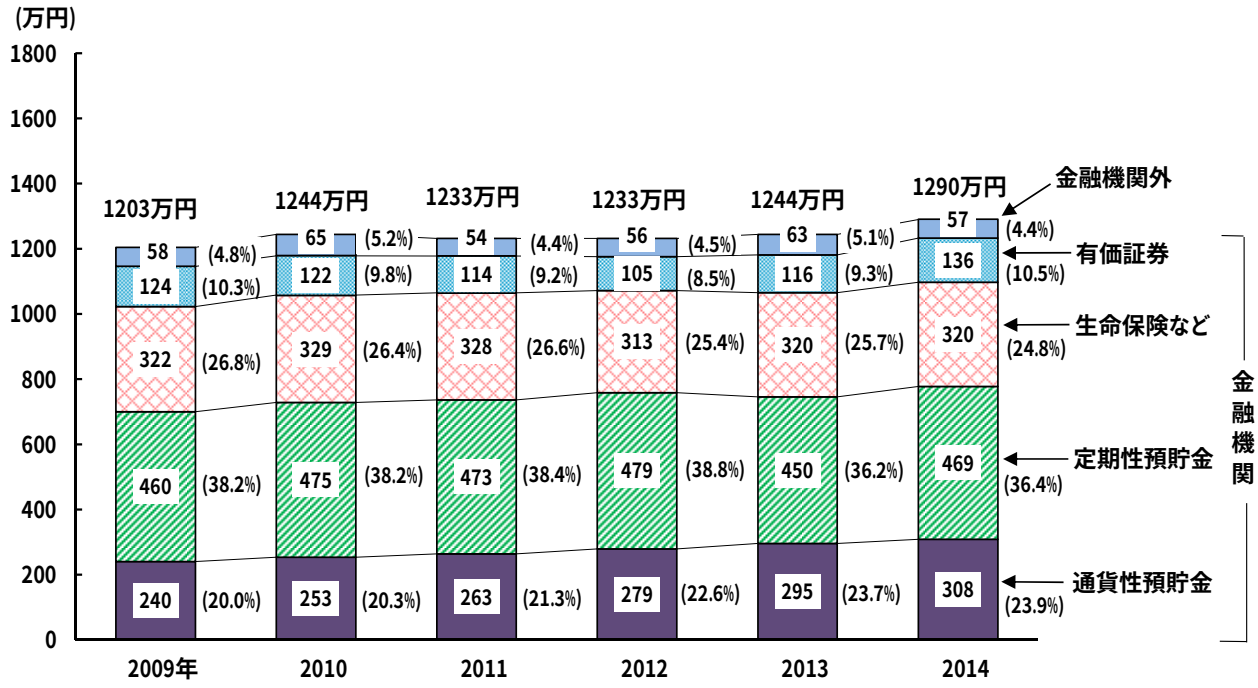
年次	二人以上の世帯のうち勤労者世帯													
	貯蓄現在高	金融機関	通貨性預貯金	普通銀行等	郵便貯金銀行	定期性預貯金	普通銀行等	郵便貯金銀行	生命保険など	有価証券	株式・株式投資信託	貸付信託・金銭信託	債券・公社債投資信託	金融機関外
	金額（万円）													
2009 年	1203	1145	240	182	57	460	301	158	322	124	75	11	38	58
2010	1244	1179	253	199	54	475	317	157	329	122	76	6	39	65
2011	1233	1179	263	204	59	473	322	151	328	114	77	7	30	54
2012	1233	1177	279	216	63	479	329	150	313	105	67	5	33	56
2013	1244	1181	295	231	64	450	309	141	320	116	80	6	29	63
2014	1290	1233	308	245	64	469	323	146	320	136	101	6	29	57
	構成比（%）													
2009 年	100.0	95.2	20.0	15.1	4.7	38.2	25.0	13.1	26.8	10.3	6.2	0.9	3.2	4.8
2010	100.0	94.8	20.3	16.0	4.3	38.2	25.5	12.6	26.4	9.8	6.1	0.5	3.1	5.2
2011	100.0	95.6	21.3	16.5	4.8	38.4	26.1	12.2	26.6	9.2	6.2	0.6	2.4	4.4
2012	100.0	95.5	22.6	17.5	5.1	38.8	26.7	12.2	25.4	8.5	5.4	0.4	2.7	4.5
2013	100.0	94.9	23.7	18.6	5.1	36.2	24.8	11.3	25.7	9.3	6.4	0.5	2.3	5.1
2014	100.0	95.6	23.9	19.0	5.0	36.4	25.0	11.3	24.8	10.5	7.8	0.5	2.2	4.4
	対前年増減率（%）													
2009 年	-3.8	-4.2	2.6	2.8	0.0	-4.0	-5.0	-3.1	-3.6	-15.6	-20.2	37.5	-15.6	5.5
2010	3.4	3.0	5.4	9.3	-5.3	3.3	5.3	-0.6	2.2	-1.6	1.3	-45.5	2.6	12.1
2011	-0.9	0.0	4.0	2.5	9.3	-0.4	1.6	-3.8	-0.3	-6.6	1.3	16.7	-23.1	-16.9
2012	0.0	-0.2	6.1	5.9	6.8	1.3	2.2	-0.7	-4.6	-7.9	-13.0	-28.6	10.0	3.7
2013	0.9	0.3	5.7	6.9	1.6	-6.1	-6.1	-6.0	2.2	10.5	19.4	20.0	-12.1	12.5
2014	3.7	4.4	4.4	6.1	0.0	4.2	4.5	3.5	0.0	17.2	26.3	0.0	0.0	-9.5

図２　貯蓄の種類別貯蓄現在高及び構成比の推移

（二人以上の世帯）



（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）



注）（　）内は，貯蓄現在高に占める割合

（２）貯蓄現在高が3000万円以上の世帯の有価証券の割合は約２割

二人以上の世帯について貯蓄現在高階級別に貯蓄の種類別割合をみると，貯蓄現在高が少ない世帯ほどおおむね通貨性預貯金の割合が高く，貯蓄現在高が多い世帯ほどおおむね定期性預貯金及び有価証券の割合が高くなっている。貯蓄現在高が3000万円以上の世帯についてみると，有価証券の割合は約２割となっている。

（表３，図３）

表３　貯蓄現在高階級，貯蓄の種類別貯蓄現在高（二人以上の世帯）－2014年－

項　目	平　均	200万円未満	200万円以上～400万円未満	400～600	600～800	800～1000	1000～1200	1200～1600	1600～2000	2000～3000	3000万円以上
	金　額（万円）										
貯蓄現在高	1798	70	286	493	686	891	1085	1387	1791	2428	5764
金融機関	1761	68	277	478	665	864	1048	1344	1730	2374	5677
通貨性預貯金	380	36	112	175	201	270	287	354	407	502	1027
定期性預貯金	758	18	86	172	254	335	410	570	729	1098	2495
生命保険など	371	13	70	116	182	215	293	340	445	536	1054
有価証券	251	1	9	15	27	46	60	80	149	238	1101
金融機関外	37	2	9	15	21	26	36	42	62	53	87
（参考）年間収入	614	473	558	566	574	624	617	604	667	654	773
	構成比（%）										
貯蓄現在高	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
金融機関	97.9	97.1	96.9	97.0	96.9	97.0	96.6	96.9	96.6	97.8	98.5
通貨性預貯金	21.1	51.4	39.2	35.5	29.3	30.3	26.5	25.5	22.7	20.7	17.8
定期性預貯金	42.2	25.7	30.1	34.9	37.0	37.6	37.8	41.1	40.7	45.2	43.3
生命保険など	20.6	18.6	24.5	23.5	26.5	24.1	27.0	24.5	24.8	22.1	18.3
有価証券	14.0	1.4	3.1	3.0	3.9	5.2	5.5	5.8	8.3	9.8	19.1
金融機関外	2.1	2.9	3.1	3.0	3.1	2.9	3.3	3.0	3.5	2.2	1.5
	構成比の対前年変化幅（ポイント）										
貯蓄現在高											
金融機関	0.2	0.0	0.0	-0.3	-0.1	-0.2	-0.2	0.1	-0.5	0.7	0.3
通貨性預貯金	0.6	0.0	1.2	1.8	0.0	4.9	-0.2	2.2	0.4	-0.4	0.9
定期性預貯金	0.6	0.0	-2.1	1.4	0.9	-1.5	-0.6	1.2	-1.8	1.8	0.4
生命保険など	-1.2	0.0	1.2	-3.2	-0.4	-3.4	2.1	-2.0	0.2	-0.7	-1.2
有価証券	0.2	-1.5	-0.3	-0.3	-0.9	0.0	-1.1	-1.2	0.6	0.0	0.2
金融機関外	-0.2	-1.4	0.0	0.3	0.1	0.0	0.1	-0.3	0.6	-0.7	-0.3

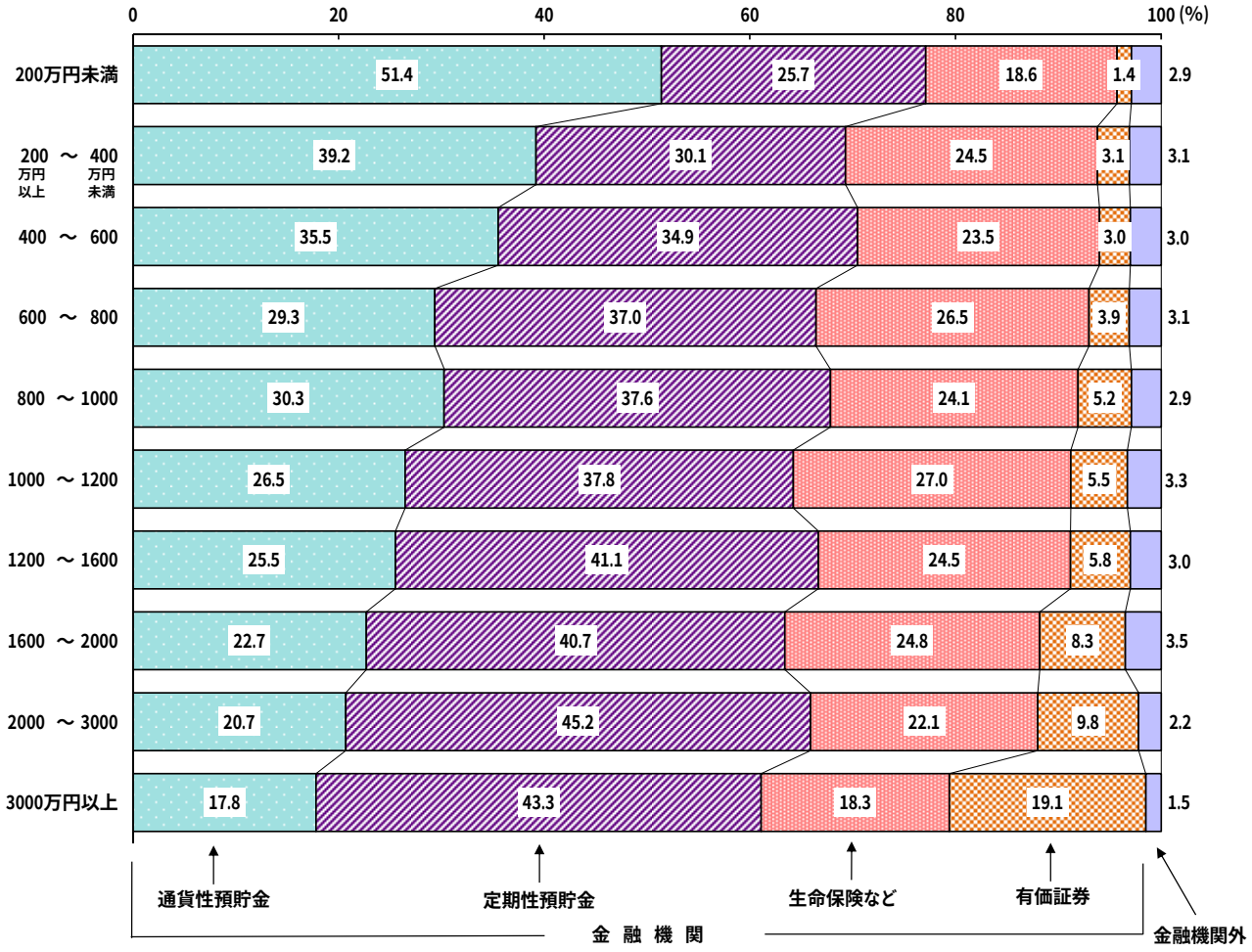



図３　貯蓄現在高階級，貯蓄の種類別貯蓄現在高の構成比（二人以上の世帯）－2014年－